

市長コラム

キャッチボール 第34球



若者が集う、活力あるまちづくりへの第一歩



「西条市の魅力を知ってもらい、若者の視点をまちづくりに生かすこと」を主目的に、松山大学生87人、教職員7人によるバス研修事業を実施しました。

この事業の原点は、一昨年から2年続けて、松山大学で開催された講座に私が出講し、西条市が誇る西条まつりや石鎚山、産業や文化などについて映像を交え説明したことにあります。

各年約200人も受講生の多くから、「西条市の持つポテンシャルの高さに驚いた」との感想をいただきました。しかし一方で、あいさつ代わりに投げかけた「西条市に行ったことのある人？」との問いかけに対して、手が挙がった人はごくわずかという現実を目の当たりにし、西条市に対する学生の認知度が低いと感じられ、大変残念に思いました。

そこで、県内大学生たちの認知度向上のためには、まず実際に西条市の土を踏んでもらい、肌で感じてもらうことが重要と考え、今度はフィールドワークという形で実施してほしいとのお願いをしたことが、このバス研修事業が始まった経緯です。

第一弾となった6月20日、100人近い参加者には早朝に松山大学を発っていただき、JR伊予西条駅前を皮切りに、図書館や文化会館、うちぬき広場、中心市街地などを散策し、アサヒビールなどの臨海工業地帯を終日見学してもらいました。

後日、全員から研修の感想や今後のまちづくりへの意見が寄せられました。「水のおいしい西条市に住んでみたい」「就職活動のエリアとして考えたい」などのうれしい反響とともに、「若者が住むには、まちが寂しすぎるのではないか」などの厳しい意見もありました。

これらの新鮮で貴重な意見をどう生かしていくかは今後の課題ですが、ともかく確実に西条市の認知度は上がっているようです。担当教授から「キャンパス内や飲み会などで西条市の話題が度々出るようになりました」とのお話もいただいております。

今月には第二弾として、リレー講座の残る100人の受講生に来西いただく予定です。また、昨年から出講している愛媛大学からも同様に、100人参加いただく準備を進めています。

「近き者説（よろこ）び、遠き者来る（※）」と孔子が論語の中で説いていますが、次代を担う若者から支持され、誇りのもてる西条市を、着実に創っていきたいと思います。

（※）近くにいる民が喜び幸せであれば、遠くにいる民もそれを聞いて集まってくるという意。



▲市内を視察した大学生たち

ようこそ市長室・移動市長室へ

市長が、市民の皆さんの声を直接お聞きします。皆様のご参加をお待ちしています。

■対象 市内各地域で活動する自治会などのグループや団体

（1グループ当たり30分から1時間程度）

■日時・場所

- 11月18日(水) 9時～ 本庁
- 11月18日(水) 13時30分～ 小松総合支所
- 11月19日(木) 9時～ 丹原総合支所
- 11月19日(木) 13時30分～ 東予総合支所

■参加方法 各開催日の10日前までに、本庁広報広聴課、または参加を希望される各総合支所総務課へ申し込みが必要です。各場所3団体程度を予定。申し込み多数の場合は先着順。

■問合せ

- 市庁舎新館1階
広報広聴課 広聴係
TEL0897-52-1243
 - 各総合支所
総務課 総務調整係
- ※電話番号は8ページ上段